

## 舞鶴ならではのおもてなし

舞鶴観光協会会長 齋藤友幸さん

市内で文化・スポーツ、産業などあらゆる分野で活躍されている舞鶴在住の元気な人を紹介する「まいづる元気人」の連載を始めます。記念すべき第1回目は、舞鶴観光協会会長の齋藤友幸さんです。

府北部の観光というと、天橋立をイメージされがちですが、舞鶴も、他のまちに負けない特色を持っています。それは、細川幽齋公が築いた城下町や海軍ゆかりの赤れんが倉庫群、戦後の復興の第一歩を記した引き揚げの地、そして海上自衛隊や海上保安庁、日本で唯一、海上保安官を養成する海上保安学校もあります。このような舞鶴の個性や特性をうまく使いながら観光産業として売り出し、交流人口の増加を図りながら、まちが活性化することを願っています。

最近の観光は、消費者ニーズが本物志向となり、大手の旅行代理店が企画するような観光ではなく、歴史が好きな人ならその地域の歴史を巡り、お城が好きならお城を中心とした企画など、個人の好みに合わせた体験型の観光が求められています。



また、アジアでクルーズへの関心が高まる中、港を持つ舞鶴にとってはチャンスです。観光協会はいち早くその動きに対応し、今年1月、「合同会社まいづる広域観光公社」を設立し、旅行業の登録をしました。

今後は、地域の良さや特徴を最もよく把握している私たちが「おもてなしの心」をもって旅行プランを

企画していきます。

海軍ゆかりの港めぐり遊覧船では、真近で自衛艦が見られるまたとないシチュエーションですし、引揚記念館では、ボランテニアの語り部が当時の話を詳しく説明してくれます。これら地域資源の多様性と人的資源は着地型観光にとって大きな強みです。

今年は、旧海軍の近代化遺産である赤れんが倉庫群が「舞鶴赤れんがパーク」として整備されました。その管理運営を観光協会が行っており、ピアホールやバザールなどにどんどん活用し、着地型観光の実践の場として、市民の憩いの場として、また、観光の交流拠点として生かしていきたいと思えます。

「近代化遺産の赤れんが、引揚記念館、細川幽齋公ゆかりの城下町、近畿百景第1位に選ばれた五老スカイタワーからの眺望、岩がきなどの海産物、万願寺甘とうや佐波賀だいいこんなどの農産物・・・」とにかくたくさんの人たちに来ていただきたい。「ああ、舞鶴にはこういう良いものがあるんだな」ということを知ってもらいたいと思っています。

舞鶴の地域資源の中には、光を当てて少し磨けば、自ら光り輝き始めるものがまだまだたくさんあり、それらをどんどん掘り起こし、着地型観光に取り入れていきたいと思っています。

## 編集後記

暑い夏がもうすぐやってきます。舞鶴の夏と言えば、今年で37回目を迎える「ちゃつたまつり」。記念すべき第1回は教育隊がメイン会場で、当時人気の金井克子さんと安西マリアさんのコンサートのほか、たくさんのお店が出て盛大に開催されたのを覚えています。舞鶴でもこんな大きな祭りができるんだと自慢に思ったものでした。当時、私はうぶな高校1年生でした。彼女と一緒に友達を少しうらやましい気持ちで横目で見て、男たちだけではしゃいだ楽しい思い出です。みんな元気でやっているかなあ。久しぶりに再会してみたいです(ひさお)。育児休暇を終え、広報広聴課に配属になりました。子どもとべつたりの穏やかな生活から一転、激しく飛び交う情報と、地域や人との関わり幅広さに圧倒される毎日。慣れないカメラを抱えて悪戦苦闘しています。女性の視点、母の視点からも情報発信してみたいと思いますので、どうぞよろしく願います(なおこ)。今号から「広報まいづる」がA4判にリニューアル。今まで以上にデザイン性やレイアウトの技術などが重要になり、あらためて作り手としてのやりがいを感じています。まだまだ改善しなければならぬところがあると思います。新しい広報紙について、皆さんのご意見をお待ちしています(よしのり)。

